

金澤町家研究会理事長



かわかみ みつひこ
川上 光彦

金澤町家は、1950（昭和25）年までに建てられた金沢の木造建築の愛称で、魅力的な歴史的資源です。

「古い、暗い、寒い」などと敬遠され、空き家になり取壊されてきた建物が今、見直されていきます。気候風



土に合わせ根づいてきた土間や吹抜け、座敷、庭、蔵などは、現代の生活様式に合うように改修することが可能です。年配の世代は懐かしさ、若い世

魅力的な資源の金澤町家

代は新鮮さを感じています。住宅以外にも、レストラン、カフェ、店舗、工房、ゲストハウスなど、新しい用途にも用いられています。観光客は、そうした金澤町家が残る路地などを散策し、新しい金沢の魅力に出合うことを楽しんでるようです。

金澤町家は、城下町時代を継承する文化遺産でもありません。それらを活用し、金沢の魅力を一層高め、まちなかの活性化につなげたいと思います。（金沢市）